

第3学年 国語科学習指導案

1 題材名 『夏草』 ～「おくのほそ道」から～

2 題材について

(1) 題材観

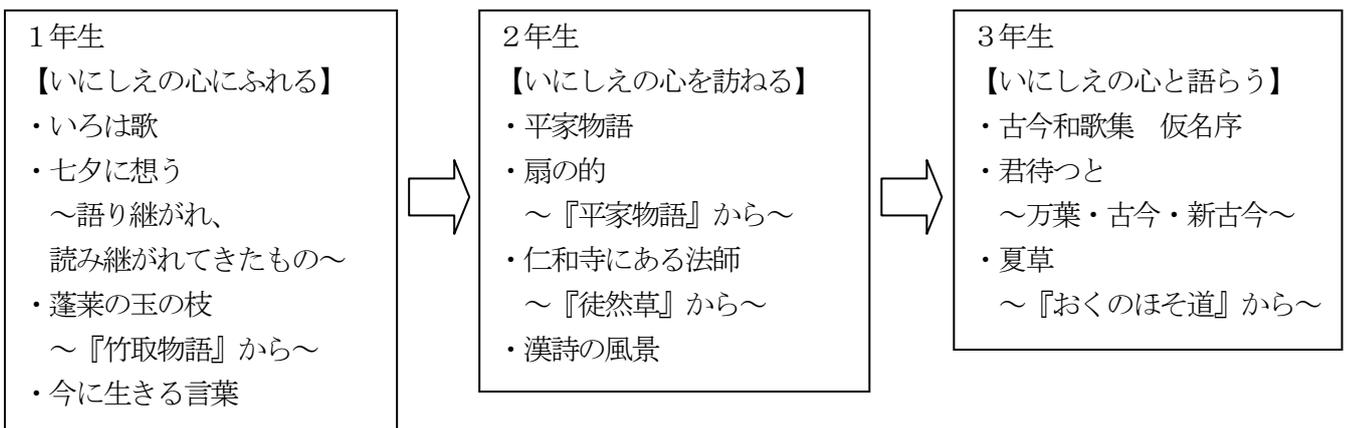
本題材は、新学習指導要領の「C読むこと」(1)エ「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと」を受け、構成した。また、新指導要領では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のア(ア)において、古典の作品の背景にある歴史を踏まえたうえ、その作品を読み深めることで、世界を広く理解することができるようになると考えられている。古典の作品に触れる中で、昔の人々の考えを知り、そこから自分の考えを深めることが、今重要となっているのではないだろうか。

滑稽味が中心だった俳諧を芸術の域に高めたのは松尾芭蕉である。その松尾芭蕉の代表的な紀行文がこの「おくのほそ道」である。これは江戸時代の代表的な作品であり、日本文学史上、とても価値の高い作品である。松尾芭蕉は、元禄2年3月末、門人河合曾良を伴い、江戸を出発し、関東・奥羽・北陸の各地を巡り、8月末に大垣にいたる、約600里(約2400km)、半年に及ぶ長旅をした。この旅は、単なる観光の旅ではなく、まだ見ぬ国々の優れた風光・旧跡・歌枕を巡り、芭蕉の敬慕する能因法師や西行など、古人ゆかりの地を訪れて詩想を豊かにしようとする旅であった。古人によって歌い継がれてきた名所旧跡を訪ねることは、古人の心に触れることとなり、風雅に心を寄せる芭蕉にとっては、どんなにすばらしい旅となったかは計り知れない。

1の「門出」では、「旅」という言葉が多用され、人生を旅とする芭蕉の考え方が凝縮された部分となっている。2の「平泉」では、その旧跡に立ち、藤原三代の栄華、義経主従の功名に思いを馳せながら、杜甫の詩を口ずさみ、単に荒れ果ててしまった景色のみを見るだけではなく、そこに生きた人々の心にも思いを馳せ、そこから自然の悠久さと人間の営みのはかなさを感じ取ることができる。芭蕉がどのような思いで旅をし、旅に対してどのような考え方をしているのかをつかむことにより、作品に込められた芭蕉の生き方やものの考え方、さらには人生観までもを知ることができるのではないだろうか。そして、それが古典のすばらしさを感じさせる一助になるだろうと考える。さらに、教科書に取り上げられている俳句や古文を読み味わわせ、芭蕉の旅を追体験させることにより、古人の心に触れ合うことができるのではないかと考える。

また、本題材を通して、道徳の内容項目4-(9)の日本人としての自覚を持って国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する心を育てることができればと思う。

(2) 系統



(3) 生徒の実態 (男子18名 女子18名 計36名)

明るく素直な生徒が多く、授業に対してもまじめに取り組み、提出物もしっかりと出せる生徒が多い。極端に学力に問題のある生徒はあまりいないが、授業の内容を理解しきれていない様子が見られる生徒もいる。しかし、その生徒の中には何が理解できなかったのかも分からない生徒がいるので、丁寧に支援をしていく必要がある。

① 調査結果 (10月19日実施)

〈関心・意欲・態度〉

国語は好きですか。 好き…11人 どちらかと言うと好き…7人 どちらかと言うと嫌い…16人 嫌い…2人
古典は好きですか。 好き…7人 どちらかと言うと好き…11人 どちらかと言うと嫌い…10人 嫌い…8人 ※好きな理由…言葉の響きがおもしろい 分かったと楽しい ※嫌いな理由…理解できない 意味が分からない 難しい 現代仮名遣いに直せない
古い時代に生きた人々の考え方や生き方に関心がありますか。 ある…12人 少しある…14人 あまりない…8人 全くない…2人

〈話すこと・聞くこと〉

自分の意見を相手に伝えることは得意ですか。 得意…6人 どちらかと言うと得意…9人 どちらかと言うと苦手…16人 苦手…5人
根拠を挙げて意見を述べることができますか。 できる…5人 どちらかと言うとできる…9人 あまりできない…18人 できない…4人
相手の立場や考えを理解しようという姿勢で聞くことができますか。 よくできる…8人 できる…24人 あまりできない…4人 全くできない…0人

※平常時の聞き取りテストも参考資料とする。

〈書く〉

作文を書くことは好きですか。 好き…7人 どちらかと言うと好き…7人 どちらかと言うと嫌い…15人 嫌い…7人
自分の意見をしっかりとまとめて文章にすることができますか。 よくできる…4人 できる…13人 あまりできない…15人 全くできない…4人

※平常時の作文の内容、原稿用紙の使い方についても参考資料とする。

〈読む〉

古文の内容を理解することができますか。 よくできる…4人 できる…11人 あまりできない…17人 全くできない…4人
本文中の語句や表現からその場面の状況や登場人物の気持ちを読み取ることができますか。 よくできる…5人 できる…14人 あまりできない…13人 全くできない…4人

〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〉

古文の音読はできますか。 よくできる…4人 できる…14人 あまりできない…16人 全くできない…2人
歴史的仮名遣いを理解していますか。 よく理解している…6人 理解している…20人 あまり理解していない…8人 理解していない…2人
「なむ言ひける」「いふものなし」「あはれなり」「をかし」「かへて」を現代仮名遣いに直しなさい。 5問…7人 4問…13人 3問…10人 2問…4人 1問…2人 0問…2人

② 生徒個人調査一覧

関心・意欲……………古典学習への興味がある。

話すこと・聞くこと…積極的に相手に自分の意見を伝えることができたり、相手の立場を考えて聞くことができる。

書くこと……………自分の意見をまとめて文章にすることができる。

読むこと……………古文の内容を理解することができる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

…歴史的仮名遣いを理解し、古文を音読することができる。

③ 考察

古い時代に生きた人々の考え方や生き方に関心のある生徒は72%もいる反面、古典が好きになれない生徒が50%もいる。その嫌いな理由のほとんどが、「難しいから」、「理解できないから」ということから、古典に関心はあるものの、読み取ることができないからと嫌いになっている生徒もいることが分かる。実際に、古典の内容を理解することができるという生徒に対し、理解できないという生徒の方が多ということも、上記の調査から分かった。そこで、本題材においては、古典の内容を読み取る力をつけ、昔の人の考え方や生き方に触れていく中で、古典のおもしろさを感じられるようにしたいと思う。

また、ホ、ワ、オ、コの生徒においては、十分に読む力が身につけていない様子が見られるので、机間指導をするなどの支援をしていく必要があると思われる。

3 目標

- (1) 古文を音読し、古人のものの見方や考え方、生き方について考察をすることができる。
(関心・意欲・態度)
- (2) 古文を朗読し、古人のものの見方や考え方、生き方について読み取り、自分の考えを持つことができる。(読む能力)
- (3) 歴史的仮名遣いに注意し、文体の特徴に注意して読み味わい、古典に親しむことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4 指導計画(6時間扱い)

- (1) 「おくのほそ道」の作者、成立年代などをとらえる。
歴史的仮名遣いに注意し、リズムや調子をつかみながら、本文を繰り返し音読する。…1時間
- (2) ノートに「1(門出)」の全文視写をする。
語句の意味に注意して、脚注を参考にしながら口語訳をする。……………1時間
- (3) 「1」の部分から松尾芭蕉の旅の目的を考え、その思いについてまとめる。……………1時間(本時)
- (4) ノートに「2(平泉)」の全文視写をする。
語句の意味に注意して、脚注を参考にしながら口語訳をする。……………2時間
- (5) 「2」の部分から芭蕉が何を見て何を感じたのかを読み取り、芭蕉の人生や自然に対するものの見方や感じ方に触れる。……………1時間

5 本時の指導

(1) 目標

松尾芭蕉がどのような思いで旅立ったのかを理解し、その生き方をどのように感じるのか、自分の考えをまとめることができる。【読むこと】

(2) 展開

学習活動と内容	時配 形態	指導上の留意点 ※道徳教育との関連事項 ◎特に支援を必要とする生徒	評価 (方法)
1 冒頭文を一斉音読する。	3分 一斉	○歴史的仮名遣いに注意をして、リズムや調子を意識しながら読むことができるように確認する。	
2 本時の学習課題を確認する。 松尾芭蕉はどのような思いで旅立ったのだろうか。 ～今と昔を比べて考えてみよう～	2分 一斉	◎ホ、ワ、オ、コの生徒は、歴史的仮名遣いが理解できていないので、机間指導をしながら音読ができるように支援する。 ○本時の学習課題を板書して確認させ、意欲付けを図る。	
3 現代の「旅」と芭蕉(昔)の「旅」の交通手段の違いについて考える。 今：電車・飛行機 など 芭：徒歩	2分 一斉	○現代の「旅」と芭蕉(昔)の「旅」の交通手段の違いについて考えるよう指示する。	

<p>4 現代における「旅」の定義がどのようなものかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家から離れること ・旅行 ・非日常 ・楽しいもの など 	<p>3分 一斉</p>	<p>○現代の「旅」のイメージをあげるよう支持する。</p>	
<p>5 芭蕉の生きた時代について確認し、その時代の「旅」の定義がどのようなものだったのかを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生 ・日常 ・親しい人との別れ など 	<p>5分 一斉</p>	<p>○芭蕉の旅の定義について確認し、現代の旅との違いを認識するように伝える。</p> <p>○人生50年と言われていた江戸時代に、46歳の芭蕉が旅に出たのは、相当の覚悟があったのだろうということを想像してみるように助言する。</p> <p>○芭蕉が旅に出たくて仕方がない思いを持っていることに気付けるように助言する。</p>	
<p>6 現代の「旅」と芭蕉（昔）の「旅」との違いを認識し、芭蕉の思いについて捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「旅の目的」の違いについて考える。 今：「観光」「リフレッシュ」 芭：「文学を確立させたい」 ・「旅の準備」の違いについて考える。 今：新しい服を買う 新しいものを買う マッサージに行く 芭：股引の破れたところを繕う 道中笠のひもを付け替えた 灸をすえた ・「旅の心構え」の違いについて考える。 今：旅を楽しむ 芭：家を人に譲る・死を覚悟する 	<p>25分 グループ ↓ 一斉</p>	<p>○「旅の目的」の違い 芭蕉が「白河の関を越えたい」とか「松島の月が見たい」などと言いながら、「杜甫や李白のように文学を確立させたい」という思いに着目するよう指示する。</p> <p>○「旅の準備」の違い 芭蕉が「もったいない」精神により物を直して旅支度をしたのに対し、私たちは新しいものをあれもこれもと買い替えて旅支度をするという違いを認識するように支持する。</p> <p>○「旅の心構え」の違い 「住めるかたは人に譲り」という叙述や俳句から、芭蕉が家を引き払い、死を覚悟してまでも旅に出るのに対して、私たちは旅を楽しもうという思いしかないという違いについて認識するように支持する。</p> <p>◎ホ、ワ、オ、コの生徒については、机間指導をしながら本文中の着目すべき箇所などのヒントを与える。</p> <p>◎チ、カ、ク、テの生徒については、読む力に長けているので、グループの中で中心的な役割を果たせるように声をかける。</p> <p>※芭蕉の死を覚悟してまでも文学を確立させたいという決意に触れ、日本の優れた伝統の継承に貢献しようとする心を育む。</p>	<p>○芭蕉の旅への思いを読み取り、理解することができる。 (観察・プリント)</p>

<p>6 命をかけてまで旅をする芭蕉のことをどのように考えるのか、感想を書く。</p>	<p>10分 個別</p>	<p>○自分なら死を覚悟して旅にできるのかについて考えてみると良いことを助言する。 ○芭蕉が死を覚悟してまでも旅に出たということは、古人と同じ気持ちになることに憧れを抱いたのではないかということなどに気付けるように助言する。 ◎ホ、ワの生徒は、自分の考えを書けるように机間指導をしながらアドバイスを与える。</p>	<p>○芭蕉の旅への決死の覚悟を知り、自分の感想を書くことができる。 (観察・プリント)</p>
---	-------------------	---	--

6 板書計画

<p>死を覚悟する 家を人に譲る</p> <p>心 構 え</p> <p>必ず家に帰ってくる 旅を楽しむ</p>	<p>股引の破れを繕う 笠のひもを付け替える 三里に灸をすえる</p> <p>準備</p> <p>新しい服を買う 新しい傘を買う マッサージに行く</p>	<p>文学を確立させたい</p> <p>目的</p> <p>観光・リフレッシュ</p>	<p>人生・日常 親しい人との別れ よその土地へ行くこと</p> <p>定義</p> <p>家から離れること 非日常・楽しいもの よその土地へ行くこと</p>	<p>徒歩 交通</p> <p>手段</p> <p>電車・飛行機</p>	<p>昔(芭蕉) 今</p> <p>松尾芭蕉はどのような思いで旅立ったのだろうか。 〜今と昔を比べて考えてみよう〜</p>
--	---	---	---	--	---

アンケート調査

3年〇組 番 氏名

【関心・意欲・態度】

- 1 国語は好きですか。
(好き ・ どちらかと言うと好き ・ どちらかと言うと嫌い ・ 嫌い)
- ② 2 古典は好きですか。
(好き ・ どちらかと言うと好き ・ どちらかと言うと嫌い ・ 嫌い)
- 3 2で「好き」「どちらかと言うと好き」と答えた人は、好きな理由を教えてください。
①

- 3 2で「どちらかと言うと嫌い」「嫌い」と答えた人は、嫌いな理由を教えてください。
②

- 4 どのような古典の作品を知っていますか。

- 5 今までの古典の学習で印象に残っていることはありますか。
(はい ・ いいえ)
- 6 5で「はい」と答えた人は、どのようなことが印象に残っていますか。
①

- 6 5で「いいえ」と答えた人は、どのようなことなら印象に残ると思いますか。
②

- ⑦ 古い時代に生きた人々の考え方や生き方に関心がありますか。
(ある ・ 少しある ・ あまりない ・ 全くない)
- 8 古典の学習において積極的に発言をすることができますか。
(自信がある ・ できる ・ あまりできない ・ 全くできない)
- 9 調べることは好きですか。
(好き ・ どちらかと言うと好き ・ どちらかと言うと嫌い ・ 嫌い)

【話す・聞く】

- 1 人前で話すことは好きですか。
(好き ・ どちらかと言うと好き ・ どちらかと言うと嫌い ・ 嫌い)
- 2 発表をするのは好きですか。
(好き ・ どちらかと言うと好き ・ どちらかと言うと嫌い ・ 嫌い)
- 3 音読や朗読は得意ですか。
(得意 ・ どちらかと言うと得意 ・ どちらかと言うと苦手 ・ 苦手)
- 4 今までにおこなったスピーチなどはうまくできたと思いますか。
(よくできた ・ できた ・ あまりできない ・ 全くできない)
- 5 人に話を聞くことは好きですか。
(好き ・ どちらかと言うと好き ・ どちらかと言うと嫌い ・ 嫌い)
- 6 自分の意見を相手に伝えることは得意ですか。
(得意 ・ どちらかと言うと得意 ・ どちらかと言うと苦手 ・ 苦手)
- 7 根拠を挙げて意見を述べることができますか。
(できる ・ どちらかと言うとできる ・ どちらかと言うと苦手 ・ 苦手)
- 8 人の話を聞くことは好きですか。
(好き ・ どちらかと言うと好き ・ どちらかと言うと嫌い ・ 嫌い)
- 9 相手の立場や考えを理解しようという姿勢で聞くことができますか。
(よくできる ・ できる ・ あまりできない ・ 全くできない)
- 10 聞き取りテストは得意ですか。
(得意 ・ どちらかと言うと得意 ・ どちらかと言うと苦手 ・ 苦手)

【書く】

- 1 作文を書くことは好きですか。
(好き ・ どちらかと言うと好き ・ どちらかと言うと嫌い ・ 嫌い)
- 2 自分の意見をしっかりとまとめて文章にすることができますか。
(よくできる ・ できる ・ あまりできない ・ 全くできない)

【読む】

- 1 古文の内容を理解することができますか。
(よくできる ・ できる ・ あまりできない ・ 全くできない)
- 2 本文中の語句や表現から、その場面の状況や登場人物の気持ちを読み取ることができますか。
(よくできる ・ できる ・ あまりできない ・ 全くできない)

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 1 古文の音読はできますか。
(よくできる ・ できる ・ あまりできない ・ 全くできない)
- 2 歴史的仮名遣いを理解していますか。
(よく理解している ・ 理解している ・ あまり理解していない ・ 理解していない)